

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム はまなす石狩(2階)	評価実施年月日	平成22年2月4日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年2月10日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>「利用者が求める充実した生活と健全な運営を実現するため、家族、地域住民、関係機関などからの要望、助言を聞く」という内容で取り組んでいる</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>「その人らしさ」を出せるよう、取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>重要事項説明書にて家族に説明を行っている。又、施設内に掲示し来客にも認識してもらっている</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>町内会の新年会、清掃作業や除雪ボランティアなどに参加し日常的に交流している</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>市の夏まつり、福祉まつり、町内会のお祭り他地域交流を行っている</p>	
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>認知症サポーター活動を通じて、認知症を理解していただく支援をしている 会報で認知症とはどういうものかを、地域に知ってもらおうようにしている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価をすることによって、個人個人がレベルアップ出来るよう活用している。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	つど、貴重な意見をいただき意見交換の場、また日頃気になっている事などを推進委員とともに議論しながら日々の業務に活かしている		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市内の他グループホーム事業所との連携を図る意味で石狩市グループホーム連絡会を年に何回か開催しており、市職員にも参加していただき連携、交流、情報交換を図っている		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	地域権利擁護事業や成年後見制度については施設内に掲示しており、ケア会議、職員会議等でふられている。また実際に成年後見制度を利用している入居者様がいらっしゃり、後見人との連携も図っている		
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待に関しては、市地域包括支援センターとの連携を通して常に注意を図っている 石狩市グループホーム連絡会でも同センター職員からの注意があり十分に留意している		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約前にあらかじめヒヤリングを行い、十分な説明と同意を得ている		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者との対話の時間を多く持って、要望や不満をよく聴き、職員会議等で、情報を共有している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	主に面会時など日常生活の様子、健康面についての説明を行っている。緊急を要する場合、受診結果、往診結果について都度、電話連絡を行っている		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時など家族に積極的に声かけを行い、意見・要望を聞いている。運営推進会議などでも意見を聞く機会を設け事業所運営に活かしている		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議等で、日頃の不満点や意見を話し合い、問題解決につとめている		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状況により出勤時間を変更したり、あるいは人数を多くしたり常に柔軟な対応をしている		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	不安になる気持ちを最小限におさえるために早めにその旨を伝えたり、場合によっては離職、異動をしばらく伏せるなどの配慮をしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	日本認知症高齢者GH協会開催のスタッフ研修会に全員参加している。センター方式の勉強会も参加してもらっている		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	認知症サポーター活動や石狩市GH連絡会などの活動を通じて、あるいは他事業所の勉強会、イベントに参加させてもらったりと連携をはかっている		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	ストレスがたまったら頃に懇親会をもうけている		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	資格取得への支援や時間・勤務日の配慮などしている。また自己学習用の資料なども配布している		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	時間がゆっくり取れる際にはさりげなく話を聞いて希望や不安をくみ取っている		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居初期時は家族との連携をより多く取り、面会数の増減を助言したり生活の様子を伝えるなどの対応、同時に話を多く聞いている		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	在宅生活継続の可能性をさぐり、必要であれば他の在宅サービスやインフォーマルサービスの利用を提案するなど対応している		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	職員からの声かけを多くし、利用者や家族が不安に思っていることを取り除けるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	本人の生活歴や、趣味、特技、その人の過ごしてきた地域などの話題などを通じて、職員や他の入居者を含め、互いに共有できる環境作りに心かけている。		
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	本人の近況や、要望などを面会時などに、お伝えするなど、情報の共有や家族の「思い」を理解し信頼関係を築けるよう心かけている。		
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。</p>	本人の家族への想いや、家族の本人に対する想いを理解し、互いに良い関係が築けるよう配慮している。		
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	電話、手紙などのやり取りや、気軽に面会に来ていただける様、努めている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	日々の生活をおくる仲間として意識しあえるよう、娯楽や行事などを通して互いに関わりが持てるよう支援している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後も必要に応じて、家族へのサポートを行うなど対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式に沿った対応や日々のコミュニケーションなどを通じ理解に努め「その人らしさ」を第一に考え、ケア方法を検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	個々の生活歴を把握し、その人らしさや持っている力を発揮できるよう支援を行っている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎朝のバイタルチェック、その日の気分や状態、体調を考慮し日課の調整を行っている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	まず、本人が何を求めているかを前提に職員間はもちろん、家族とも情報を共有し介護計画作成に取り組んでいる		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>ケアカンファレンスを定期的に行い、本人や家族からの意見・要望を聞きながらケア計画表の作成を行い、見直しの以前に状況の変化があった時はケア計画の見直しを行っている。</p>		
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の変化や、工夫したことなど個々の情報の記録をカンファレンス等で話し合い、職員全員が理解した上で、計画の見直しや実践にいかしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>可能な限り、本人や家族の要望などに応じて対応している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>市や町内会が行う行事などに参加するなど行っている。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>他事業所主催のイベントなどに参加させてもらうなど行っている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>運営推進会議などで、地域の方への助言、説明などを一緒に行っている</p>		



	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医の往診や、電話や訪問し相談したり、指示を受けながら対応している。</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症に理解があり、定期的な往診時に相談にのっていただいている。また、必要時には、電話などにて対応していただいている。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>看護職員を配置の上、24時間気軽に相談を行っている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>出来る限り毎日面会を行い、病院関係者などと必要な情報を共有できるよう連携を図っている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>本人、家族などの希望や要望などを十分に反映できるよう、医師とも含め対応方針を決定できるようにしている。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>本人の意思や今後の事を十分に把握・検討したうえで、方針を決定し情報を共有できるように取り組んでいる。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49	<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>実例はないものの、本人のダメージにならないよう対応したい。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>入居者本人の尊厳を傷つけないような言動を行っている。又個人情報の取り扱いについては、関係法令を遵守しプライバシー保護に努めている。</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>本人にとって、理解しやすい言葉で必ず説明を行い、同意を得た上で支援している。</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>個人のその日の状態などを考慮しながら、生活リズムを保てるようケアを行っている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>髭剃りや身だしなみには留意している。又、理美容については、来接してもらって、本人の希望も取り入れながら行っている。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	個人、それぞれの力に合わせて言葉がけを行ったり、サポートしながら一緒に行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	その人が望む嗜好品を把握し提供したり、喫煙など安全に配慮し楽しめるよう支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	定期誘導や排泄チェックを行い、オムツの使用を出来る限り減らし、羞恥心にも配慮しながらトイレで排泄が出来るよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	体調や本人の希望などに配慮し、時間や日にちをずらして安全にも注意しながら支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	本人の体調や、今までの生活習慣なども考慮し、休息・睡眠ができるよう対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴や、趣味、嗜好、特技などから役割を持っていただいたり、散歩やドライブなど外出することによって気分転換できるよう心かけている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
60	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>管理可能の方には、金額を配慮するなど、工夫して持っていていただく。</p>		
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>希望に応じて散歩に同行したり、外部の行事に参加できるよう機会を増やすようにしている。</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>家族を含めた一泊旅行や、果物狩りなど年間を通して行事がある。又、希望に応じて家族との外出や外泊の機会を設けている。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>家族や知人にいつでも連絡が取れるよう体制を整えている。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>本人、家族や面会の人達が居室等で過ごしやすく配慮している。</p>		
(4)安心と安全を支える支援				
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束をしない介護に常に取り組み職員間でも話題にしている。又、身体拘束廃止の研修会にも参加し勉強会などを実施している。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	<p>防犯上の理由で夜間を施錠するが、日中は常時オープンで施錠せずに過ごしている</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>職員同士の連携を図り、居間などには常に職員がいるように配慮したケアを行っている。</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>注意が必要な物品などは、日々確認を行ったり、定められた場所に保管するなどし、本人とも話し合い、了解を得て保管するようにしている。</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとりの状態を把握し、ヒヤリとしたことや危険だと思われることを、職員間で声を掛け合ったりし事故の防止に取り組んでいる。</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>事故発生対応マニュアルを備え、すぐに目に入る所に備えている。</p>	○	<p>在職の看護師等に応急手当など急変時の対応について対処法など、相談実践していきたい。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>運営推進委員会のメンバーも参加した非難訓練を行っている。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72	<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>入居者の身体や感情の変化により、予測可能なリスクについて、家族等に説明し同意を得ている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>毎日バイタルチェックを行ったり、病院へ受診するなど対応している。変化時は記録に記載し、申し送り等で職員間で情報が共有できるようにしている。</p>		
74	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>処方内容がいつでも確認できるようになっている。効果や副作用など症状により、医師や看護師へ相談したり報告を行っている。又、薬の変更等あった場合は、申し送りなど行っている。</p>		
75	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>排泄チェックで排泄の状況を把握し、水分摂取や歩行運動、食事の工夫などに取り組んでいる。</p>		
76	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食後口腔ケア実施の見守りや介助を行い、口腔内の状況を把握し状況によっては、歯科受診も実施している。</p>		
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食食事の摂取量を把握し、必要な場合は、水分量のチェックを行い確認しながら摂取を促し、個々の嗜好に合わせ提供している。又、本人の状態によって自力摂取が困難な方には、気分よく召しあがっていただけるよう支援している。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを活用し、手洗いや消毒など実施し、毎年、インフルエンザの予防接種を受けている。又、感染症予防の研修に参加し、その理解を深めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具及び調理場の使用後は清掃を行い、必要などころには塩素消毒を行っている。また、食材は、約1日置きに購入及び発注し、安全な食材に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りや、ごみ出し場所の清掃や除雪はこまめに行っている。また玄関前にはプランターに花を植えたりし、親しみやすい環境作りに気を使っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	親しみのある絵や写真、物などを置いたり、整理整頓を行い居心地のよい環境作りを心かけている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	二階という環境を生かし、窓から景色を楽しんだり、テレビを楽しんでいただけるよう、ソファの配置を工夫したりし、好きな場所で過ごせるよう配慮している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた物や馴染みのある物、嗜好品などを持ってきていただくようお願いしている。また、居室は、本人の混乱を防ぐよう、安全面も考え家具の配置に気を配っている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	換気や空調をこまめに行い、室温計・湿度計など設置し調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	室内のほとんどがバリアフリーで、廊下、トイレ、浴室などに手すりを設置している。また、階段には昇降機を設置し、入居者の状況に配慮した空間作りをしている。		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	残存機能を生かし、出来ることを増やしたり、失敗しても自信がもてるよう支援したり対応を工夫している。居室やトイレなど必要と思われるところに表札や目印などで場所がわかるよう工夫している。		
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	冬場以外は、施設の前にベンチを置いて日光浴など楽しめるように配慮したり、プランターの花を置くなど活用している。		



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>日々努力している</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>食事、おやつの時間</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>のんびりと個人個人で活動を楽しんでいる</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>日々の生活の中で笑いがたえない</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>季節に応じた外出、レク、ドライブ (イチゴ狩り、ぶどう狩り、サクランボ狩り、お花見、一泊旅行など毎年行っている)</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>看護師を配置し、往診、受診を必要に応じて対応している</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>そう、見受けられる</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>面会時、電話などでコミュニケーションを図っている</p>

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>①ほぼ毎日のように</p> <p>②数日に1回程度</p> <p>③たまに</p> <p>④ほとんどない</p> <p>面会者を除き、以前よりは増えている</p>
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>①大いに増えている</p> <p>②少しずつ増えている</p> <p>③あまり増えていない</p> <p>④全くいない</p> <p>行事等でもたくさんの協力をしてもらっている</p>
98	職員は、生き生きと働けている	<p>①ほぼ全ての職員が</p> <p>②職員の2/3くらいが</p> <p>③職員の1/3くらいが</p> <p>④ほとんどいない</p> <p>個人の持っている個性を発揮している。</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての利用者が</p> <p>②利用者の2/3くらいが</p> <p>③利用者の1/3くらいが</p> <p>④ほとんどいない</p> <p>満足されているとおもわれる。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>①ほぼ全ての家族等が</p> <p>②家族等の2/3くらいが</p> <p>③家族等の1/3くらいが</p> <p>④ほとんどいない</p> <p>気がついた事があれば話してもらっているが、遠慮されているところも多い</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

毎年家族と入居者様が、一泊旅行に出かけているこの行事を1年でも長く続けていけるように支援することと、季節ごとの行事計画と実施